

○活動内容

おもな活動内容は、①ボバース概念に基づく治療および支援が実践できるセラピストを養成すること ②指導者を育成すること ③ご家族をはじめとする多職種の方々に普及すること 実現するための認定講習会を企画・運営することにあります。

○総会

毎年10月に総会を開催し、インストラクターや専任講師の承認、講習会の企画や内容、アジア圏内での協力体制など様々な議題を討議します。総会の前日には、教育セッションを設け、インストラクターや専任講師に加え講習会のアシスタントとともに知識および技術水準の維持・向上を図っています。

○チューターズモジュールの企画・開催

めまぐるしく発展している神経行動科学と臨床実践への応用、成人ボバース講習会との融合を図るべく、企画・開催しています。実技研修を積極的に実施し、指導者の最新の知識および技術水準の維持・向上を図っています。

○各種講習会の企画・開催

セラピスト養成を目的とした基礎講習会・上級講習会・イントロダクトリィ講習会に加え、障害のある子どもたちの療育に携わる多くの職種の方々の要請に応えるべく、さまざまな講習会を企画・開催しています。

○各地域の研修会

各地域で療育に携わる多くの職種の方々を対象とした研修会や、セラピストあるいは医師を対象とした研修会への講師派遣を行います。

○アジア各国での講習会開催

アジア各国で、脳性まひをはじめとする発達初期からの中枢神経系の損傷により困っている子どもたち、ご家族、支援者がたくさんおられます。

アジア各国で講習会を開催し、その地域で子どもとご家族を支援できる人材育成にも積極的に取り組んでいます。

○規約

ABPIA（アジア小児ボバース講習会講師会議）の規約はこちらをご覧ください。

○沿革

1970年6月

英国ロンドンにてボバースアプローチ10週間卒後講習会を受講終了した紀伊克昌（理学療法士）が帰国し、聖母整肢園（現；大阪発達総合療育センター）にて、脳性まひ児に対するボバース概念治療を開始。

1971年9月

梶浦一郎（整形外科医師，聖母整肢園園長）が渡英し、ボバースアプローチ10週間卒後講習会受講。日本の肢体不自由児療育界に於けるボバース概念治療を本格的に開始。

1973年5月

紀伊克昌（理学療法士）が再度、英国ロンドンにてボバースアプローチ10週間卒後講習会受講。ボバース夫妻から、ボバースインストラクターとして認定される。

1973年9月

厚生省および日本肢体不自由児協会の招聘により、カレル・ボバース博士、ベルタ・ボバース夫妻が来日され、日本で初めて8週間ボバース講習会が開催される。

全国の肢体不自由児施設から50名のセラピストが受講。（東京の整肢療護園小池文英園長が企画・運営された。）

1976年5月

小池文英園長の要請により、日本人講師による8週間ボバース講習会を聖母整肢園で開催（丸紅商事が提供）。以後、聖母整肢園にて、毎年、受講生24名の講習会を開催。

1982年からは、ボバース記念病院と南大阪療育園（現；大阪発達総合療育センター）、2007年から森之宮病院と大阪発達総合療育センターとで大阪コースを継続。受講卒業生からセカンドコースを受講し、インストラクターおよび専任講師を輩出。

韓国、パキスタンなど国外からの受講者も受け入れる。

1989年

心身障害児総合医療療育センターにて、東京コース開始（2016年まで継続）。

英国ロンドンでのボバース講習会受講修了者の児玉和夫（小児科医師）・鈴木恒彦（整形外科医師）・紀伊克昌（理学療法士）・原泰男（理学療法士）、新保松雄理学療法士らが主要講師を務める。

大阪コースと東京コースの講師陣による講習会プログラムと指導ポイントを検討する講師会議が毎年開催される。

1991年4月

韓国延世大学セブランス病院にて、8週間小児ボバース講習会を初めて開催。日本から総勢14名のインストラクター、専任講師が渡韓し指導する。

韓国の理学療法士金龍柱（Kim Young Jue ABPIA 名誉会員）氏が、日本語・韓国語間を
通訳。

米国テキサス州ヒューストンにて8週間 NDTA 講習会を終了していた洪(Hong)氏がアシス
タントを務める。

1992 年以後

金氏、洪氏が来日して、小児ボバース講習会講師会議に出席し、大阪コース、東京コース、
韓国コースの講習会指導水準向上を討議（ABIPIA の前身）。

洪氏らの尽力により フィリピン、インドネシア、スリランカ、から理学療法士、作業療
法士の受講生が増加。マニラ、ジャカルタなどでも小児版イントロダクトリィ講習会が開
催される。

2003 年 10 月

ABPIA 設立

2012 年 12 月

第 1 回チューターズモジュール開催